

今年も大いにわくわく

～2007わくわく広場のぼりべつ～

7月21日(土)・22日(日)の2日間、登別ビーチパーク(登別マリンパークニクス前庭)でまちおこしイベント『2007わくわく広場のぼりべつ～アートdeスゴ6～』(同実行委員会主催)が行われました。

1日目はあいにくの小雨が降る中、3月で閉校した登別温泉小学校の伝統を受け継いだ登別小学校の『登別オニッコマーチングバンド』の演奏で開幕。『花の寄せ植え』や『市民アート』などが観客の目を楽しませていました。

2日目は天候も回復し、ステージ上では猿回しやフラダンスなどが披露されたほか、子ども遊び広場ではボウリングなどのゲームにたくさん子どもたちが参加。また、会場には、来場者が夢や願い事を書いた紙を入れたカプセルを入れる大きなサイコロが設置され、終了間際にみんなの希望がかなうようサイコロが開けられました。

イベントの最後に行われた『ビンゴ大会』では、当選が出るたびに大きな歓声が上がっていました。



観光資源を大切に

～大湯沼川探勝歩道・大湯沼川の清掃活動～



8月2日(木)、『大湯沼川探勝歩道・大湯沼川(天然の足湯)の清掃活動』(登別観光協会主催)が行われました。

この清掃活動は、8月1日から7日までの観光週間に合わせて、観光資源の損傷防止や観光資源に対する思いやり、観光地でのマナーの向上を目的とした取り組みです。

この日は、市や登別観光協会、自然公園財団登別支部から12人が参加。大湯沼川の川床に沈んでいる落ち葉をかき出したほか、大湯沼川探勝歩道のごみを拾うなどして観光資源をきれいにしました。

清掃終了後、天然の足湯に来ていた観光客は「きれいになって気持ちいいね」と話していました。

スポーツを通じて友情をはぐくむ

～平成19年度登別・白石姉妹都市少年スポーツ交流事業～

7月28日(土)・29日(日)の2日間、登別大谷高校体育館などで『平成19年度登別・白石姉妹都市少年スポーツ交流事業』(登別・白石姉妹都市交流推進協議会主催)が行われました。

同交流事業は、宮城県白石市との姉妹都市提携を契機に、昭和62年度からスタート。今年は空手道や剣道、柔道の3種目が行われました。

28日は、歓迎交流会・対面式が行われた後、白石市の子どもたちは、同じ種目で競い合う登別市の子どもの家にホームステイしたり、合同で合宿したりして交流。29日は、保護者などからの声援を受け、日ごろの成果を発揮しながら各種目で競い合っていました。

